

# 上越市 <sup>たて</sup> 館遺跡 2次調査現地説明会資料



令和2年9月12日(土)

国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所  
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団



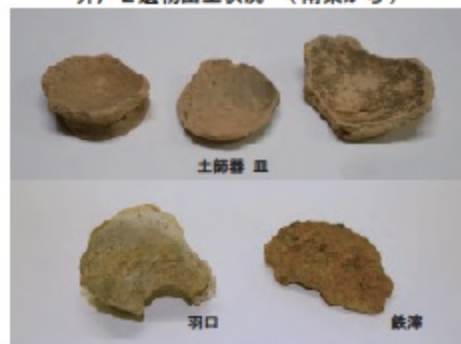
井戸4 (南から)



井戸2遺物出土状況 (南東から)



井戸5断面 (南西から)



土師器 皿

羽口

鉄滓

井戸2出土遺物

井戸は9基見つかりました。これらは直径1～2m、深さ1m以上の規模で、いずれも素掘りの井戸でした。これらの井戸の1基からは、鉄滓と轆の羽口という製鉄に関連する遺物が出土しており、鍛冶工房が近くに存在したと思われます。



土坑1遺物出土状況



土師器 碗

土師器 有台碗

土坑1出土遺物

土坑1は掘立柱建物1の北東側にある楕円形の遺構です。掘立柱建物の柱穴の上にあるようにあるため、掘立柱たてのものより新しいことが分かります。この土坑から12世紀の土器(皿)などが出土しています。また、この遺構の北側にある溝からは須恵器の甕の破片が出土しています。

ほかに、黒色土器の碗が出土する小穴や土師器の小片などが出土する溝などがあります。

館遺跡2次調査は国道253号上越三和道路建設事業に伴い、昨年に続き今年4月から発掘調査を実施しています。遺跡は、高田平野のほぼ中央、駒林集落の南東側に位置し、飯田川右岸の標高約15.8mの自然堤防上に立地しています。上層面が古代～中世、下層面が古墳時代の集落跡が営まれており、延べ5,256㎡を発掘調査する予定です。

今回の説明会は、上層面の遺構・遺物を公開しています。12世紀代の中世が主体で建物の柱穴・井戸・島跡が見つかりました。



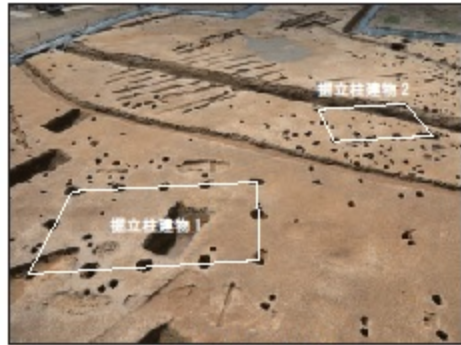
館遺跡全景



館遺跡の位置と上越三和道路関係の遺跡

(地図：国土地理院発行「高田東部」1:50,000 2007年発行)

# 館遺跡 遺構全体図



掘立柱建物（北東から）

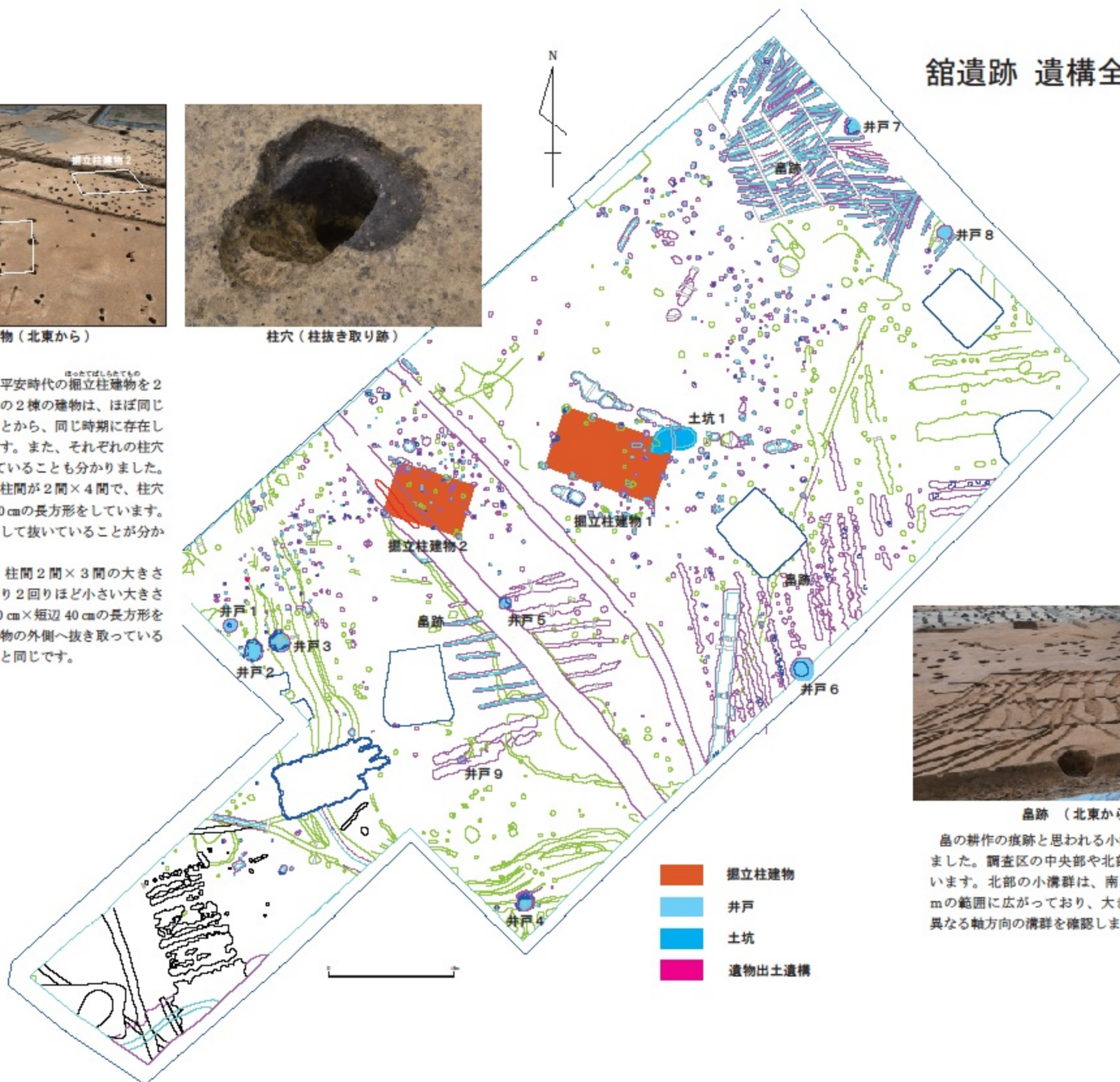


柱穴（柱抜き取り跡）

調査区の中央に、平安時代の掘立柱建物を2棟確認しました。この2棟の建物は、ほぼ同じ方向を向いていることから、同じ時期に存在していたと考えています。また、それぞれの柱穴は、柱を抜き取られていることも分かりました。

掘立柱建物1は、柱間が2間×4間で、柱穴は長辺60cm×短辺40cmの長方形をしています。柱は建物の外側へ倒して抜いていることが分かります。

掘立柱建物2は、柱間2間×3間の大きさで、掘立柱建物1より2回りほど小さい大きさです。柱穴は長辺50cm×短辺40cmの長方形をしています。柱を建物の外側へ抜き取っていることは掘立柱建物1と同じです。



畠跡（北東から）

畠の耕作の痕跡と思われる小溝が多く見つかりました。調査区の中央部や北部などで確認しています。北部の小溝群は、南北約16m東西16mの範囲に広がっており、大きく3パターン異なる軸方向の溝群を確認しました。

- 掘立柱建物
- 井戸
- 土坑
- 遺物出土遺構